

タベリ・ミリ等の長野県と東濃での分布(2)

— 中信地方とそれに連続する地域の優しい命令形と勧誘形 —

上 條 厚

キーワード: 「言う」、言う、市町村、方言形、使用率

要旨

動詞の優しい命令形・勧誘形であるタベリ(ヤ)等の調査結果について、語ごとの集計を出すと、語により使用率に相当な違いが見られる。カイ(ヤ)・タベリ(ヤ)・アソソデリ(ヤ)等は高使用率である。市町村ごとに方言形の使用率を計算した結果では、長野県内で60%以上の所は中信地方のみにあり、大町市から塩尻市にかけてと木曽郡南部にまとまっている。キ(ヤ)とクリ(ヤ) (どちらも、来なさい(来よう)の意) では、キ(ヤ)の行われる所に松本辺りからクリ(ヤ)が広がって行っているような感がある。キ(ヤ)とシ(ヤ)、クリ(ヤ)とスリ(ヤ)は、使用地域と使用率がほぼ同じである。形の類似性もあり、連動して盛衰してきたことが考えられる。

5. 調査結果の集計 その2

5. 1 語ごとの集計

次に別の観点から見る。「言う」の回答について、それぞれの語の使用状況を一覧表にする。表3がそれである。この表は上條(2001)の表4と重複する部分がある。(以下において「」付きで「言う」とするのは、調査で「言う」と回答したもの、つまり調査票のいずれか1つの語でも言うとする回答の場合である。「」なしで、言う とするのは、それぞれの語について言う場合である)

'asonderi について、そのように言わず 'asondori を言うという回答、もしくは両方言うという回答がある。両方言うのは木曽郡三岳村の3つの回答である。'asonderi を言わず、'asondori とするのは、上伊那郡箕輪町と王滝村・上松町以南の木曽郡、および岐阜県での回答である。イルよりもオルが優勢な地域であることを反映している。それらは表3では 'asonderi にまとめて表示する。

表3で語形の表記は、一覧に見やすく入れる関係でカタカナ表記とする。

市町村ごと「言う」の回答数と、「聞く」「言わない」を含めた回答数合計を挙げる。以下では「言う」の回答がある市町村のみについて扱うが、市町村内で比率を出すために「聞く」「言わない」の数が必要である。

「言う」の回答者に、識別するために番号を付ける。松本については上條(2001)の表4

と同一の番号である。塩尻は上條(2001)表4の番号マイナス33であり、波田町ーマイナス42、山形村ーマイナス46、朝日村ーマイナス48である。豊科町・梓川村・三郷村・堀金村については、上條(2001)でのローマ数字に対応する番号である。それら以外は年齢の高い方から順に番号を付けた。(梓川村は上條(2001)よりも回答数が2つ増えるが、増えた分は年齢順に番号を付けた)

それぞれの語についての言うの回答を○、言わないの回答を×として表示する。

表の末尾にそれぞれの語についての言うの回答数を集計する。その集計で、「ヤなし」「ヤあり」については次のようにする。ここでは方言形を言うか言わないかに重点を置いて考えることにし、「ヤなし」「ヤあり」の違いは集計において考慮せず、「ヤなし」「ヤあり」がどちらか一方でも○であれば、言うとして1つに数える。なお以下で「ヤなし」「ヤあり」をまとめて示す時に、'jomi('ja)、ka'i('ja) のようにする。このようにして集計した上で「言う」の人数全体(187人)に対する百分率を示す。こうして「言う」の人の中におけるそれぞれの語の使用率を出す。

表3

	「言う」の回答数	番号	ヨミヤ	カイヤ	タベリヤ	ミリヤ	アソンデイリヤ	アソンデリヤ	キヤ	クリヤ	シヤ	シリヤ	スリヤ
南信地方													
岡谷市	1/5	1	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×
諏訪市	2/5	1	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×
		2	○	○	×	×	×	○	○	×	○	×	×
上伊那 箕輪町	1/4	1	○	○	×	×	×	○	○	×	○	×	×
伊那市	1/11	1	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×
東信地方													
小県 東部町	1/5	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
長門町	2/4	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
武石村	2/2	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
上田市	3/17	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		3	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×	×
北信地方													
更級 大岡村	2/3	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
		2	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
上水内 小川村	1/3	1	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×
中 信 地方													
北安曇 小谷村	3/4	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		2	○	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×
		3	×	○	○	×	×	○	×	×	×	○	×
美麻村	3/3	1	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		2	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	×
		3	×	○	○	○	×	○	×	×	○	×	×
池田町	5/5	1	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×
		2	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○
		3	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	×
		4	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	×
		5	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×
松川村	3/3	1	×	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×
		2	×	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×
		3	×	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×
大町市	7/7	1	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×
		2	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×
		3	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×
		4	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×
		5	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×

		31	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	××	××	××	〇〇	××	××	〇〇
		32	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	〇〇
塩尻市	9/13	33	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	××
		1	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	××	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	××	〇〇
		2	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	××	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	××	〇〇
		3	××	〇〇	××	〇〇	××	××	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	××
		4	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		5	××	〇〇	××	〇〇	××	××	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	××
		6	××	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	××
		7	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		8	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		9	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	××	〇〇	〇〇
木曾 檜川村	2/ 2	1	××	××	××	××	××	××	××	××	××	××	××	××
		2	××	××	××	××	××	××	××	××	××	××	××	××
三岳村	3/ 3	1	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		2	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		3	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
王滝村	2/ 2	1	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		2	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
上松町	5/ 5	1	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		2	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		3	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		4	××	××	〇〇	××	××	〇〇	〇〇	××	××	××	××	××
		5	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	××	××	〇〇	××	〇〇	××	××
大桑村	4/ 4	1	××	××	××	××	××	××	××	××	××	××	××	××
		2	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		3	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		4	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
南木曾町	3/ 3	1	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		2	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		3	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
山口村	1/ 2	1	××	××	〇〇	〇〇	〇〇	××	××	××	××	××	××	××
岐阜県														
上矢作町	3/ 3	1	××	××	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
		2	××	〇〇	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
		3	××	〇〇	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
串原村	3/ 3	1	××	××	〇〇	××	××	××	××	××	××	××	〇〇	××
		2	××	××	〇〇	××	××	××	××	××	××	××	〇〇	××
		3	××	××	〇〇	××	××	××	××	××	××	××	〇〇	××
明智町	3/ 3	1	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		2	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		3	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
中津川市	5/ 8	1	××	××	〇〇	××	××	××	××	××	××	××	××	××
		2	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		3	××	××	××	××	××	〇〇	××	××	××	××	××	××
		4	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		5	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
恵那市	5/ 5	1	〇〇	〇〇	××	××	××	××	××	××	××	××	〇〇	××
		2	〇〇	〇〇	××	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
		3	〇〇	〇〇	××	××	××	××	××	××	××	××	〇〇	××
		4	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
		5	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
岩村町	2/ 3	1	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		2	××	××	〇〇	〇〇	〇〇	××	××	××	××	××	〇〇	××
山岡町	2/ 2	1	××	〇〇	〇〇	××	××	××	××	××	××	××	〇〇	××
		2	××	〇〇	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
坂下町	3/ 4	1	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		2	××	××	〇〇	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	〇〇	××
		3	××	〇〇	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
福岡町	3/ 3	1	××	××	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
		2	××	××	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
		3	××	××	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	××	〇〇	××
蛭川村	3/ 3	1	××	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		2	××	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		3	××	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
川上村	1/ 1	1	××	〇〇	〇〇	××	××	〇〇	××	××	××	××	××	××
付知町	3/ 3	1	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		2	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
		3	××	〇〇	〇〇	〇〇	××	〇〇	××	××	〇〇	××	〇〇	××
語ごと 言うの計	187		142	166	166	118	16	151	67	54	54	116	50	
使用率	100.0		75.9	88.8	88.8	63.1	8.6	80.7	35.8	28.9	28.9	62.0	26.7	

この表により語ごとの集計を見れば、方言形を使っている人たちの中でも、語により使用率が相当に違うことが分かる。

'jomi('ja)、ka'i('ja)、taberi('ja)、miri('ja) は皆高率である。「読む・買う・食べる・

見る」は普通の動詞である。またこれらの形は kuri('ja)、suri('ja) のような一見特異なものではない。それでよく受け入れられたということであろうか。これらの中では miri('ja) の使用率が低い。

taberi('ja) と miri('ja) を比較してみる。taberi('ja) は88.8%、miri('ja) は63.1%で、相当な開きがある。表3の市町村の中で taberi('ja) について、言うという回答が全然ない市町村は箕輪町・伊那市・奈川村のみであり、他の市町村では最低1人は言うという回答がある。それに対し miri('ja) について、言うという回答が全然ない市町村は、諏訪市・箕輪町・伊那市・長門町・大岡村・小川村・小谷村・生坂村・榎川村・王滝村・上矢作町・串原村・恵那市・山岡町・福岡町・川上村と、多くなっている。「食べる」と「見る」はどちらもよく使われる一段動詞であるが、taberi('ja) と miri('ja) には使用の差が大きい。同じ一段動詞においても、差が大きい面があることを示す例となっている。

'asonde'iri('ja) については非常に低い使用率である。それに対し 'asonderi('ja)('asondori('ja)含む) は相当な高率である。複合動詞が縮約形になびいたということの結果であろう。ただし 'asonde'iri('ja) のみを言うという、上田市の1(1は表3に示した回答者の番号)のような回答もある。なお 'asonderi('ja)('asondori('ja)含む) について、言うという回答が全然ない市町村は、東部町・大岡村・小川村・生坂村・明科町・榎川村・山口村・串原村である。表3の市町村の中で、岐阜県では串原村のみに言うという回答がない。'asonderi('ja)('asondori('ja)) は大きな勢力を持っていると言える。複合動詞の中で -t(d)e'iri が縮約形 -t(d)eri として、松本地方でよく聞かれるものであるので調査票に入れたのであるが、このように広範囲で使われるという結果が得られた。

ki('ja)、kuri('ja)、si('ja)、siri('ja)、suri('ja) については、siri('ja) を除いて使用率が低い。これらについては後に再度見る。

5. 2 市町村ごとの集計

次に以下のような集計をする。

「ヤあり」「ヤなし」はどちらか一方でも○であれば、言うとして1つに数える。これは前記と同じ。

次のものは1つに統合して集計する。いずれか1つでも○であれば、言うとして1つに数える。

'asonde'iri('ja)、'asonderi('ja)('asondori('ja)含む)

ki('ja)、kuri('ja)

si('ja)、siri('ja)、suri('ja)

このようにするのは、方言形それぞれについて考えるのではなく、動詞それぞれについて考えて、非共通語の形を言うか言わないかを見るためである。こうすれば調査した動詞それぞれについて、方言形の有無に基づく集計ができる。こう計算すると1人の最大数値は7になる。

こうしてまず1人ずつの数値を出す。次にそれに基づいて市町村ごとの合計を出す。これで回答者の単なる人数ではなく、個人個人の数値による集計ができる。次に、

(各市町村の「聞く」「言わない」を含めた合計回答数)×7

で割り、比率を出す。これで市町村ごとの調査者全員に対する使用の比率が出る。市町村ごと方言形の使用に関して、量として見て比べることができる。この計算結果を百分率で示すと次のようになる。

表 4

南信地方			南安曇郡					
岡谷市		20.0	穂高町	65.7		三岳村	76.2	
諏訪市		28.6	豊科町	92.9		王滝村	71.4	
上伊那郡 箕輪町		17.9	堀金村	81.0		上松町	65.7	
伊那市		3.9	三郷村	62.9		大桑村	75.0	
東信地方			梓川村	82.1		南木曾町	100.0	
小県郡	東部町	11.4	安曇村	95.2		山口村	28.6	
	長門町	35.7	奈川村	52.4	岐阜県			
	武石村	50.0	東筑摩郡 麻績村	78.6		上矢作町	52.4	
上田市		14.3	坂北村	35.7		串原村	28.6	
北信地方			本城村	100.0		明智町	85.7	
更級郡 大岡村		9.5	生坂村	7.1		中津川市	33.9	
上水内郡 小川村		19.0	明科町	23.8		恵那市	45.7	
中信地方			四賀村	71.4		岩村町	33.3	
北安曇郡 小谷村		57.1	波田町	100.0		山岡町	57.1	
	美麻村	100.0	山形村	100.0		坂下町	46.4	
	池田町	97.1	朝日村	92.9		福岡町	42.9	
	松川村	100.0	松本市	70.7		蛭川村	66.7	
大町市		100.0	塩尻市	63.7		川上村	42.9	
			木曾郡 檜川村	35.7		付知町	57.1	

この表の中から80%以上を挙げると次の如くである。

100% 美麻村 松川村 大町市 本城村 波田町 山形村 南木曾町

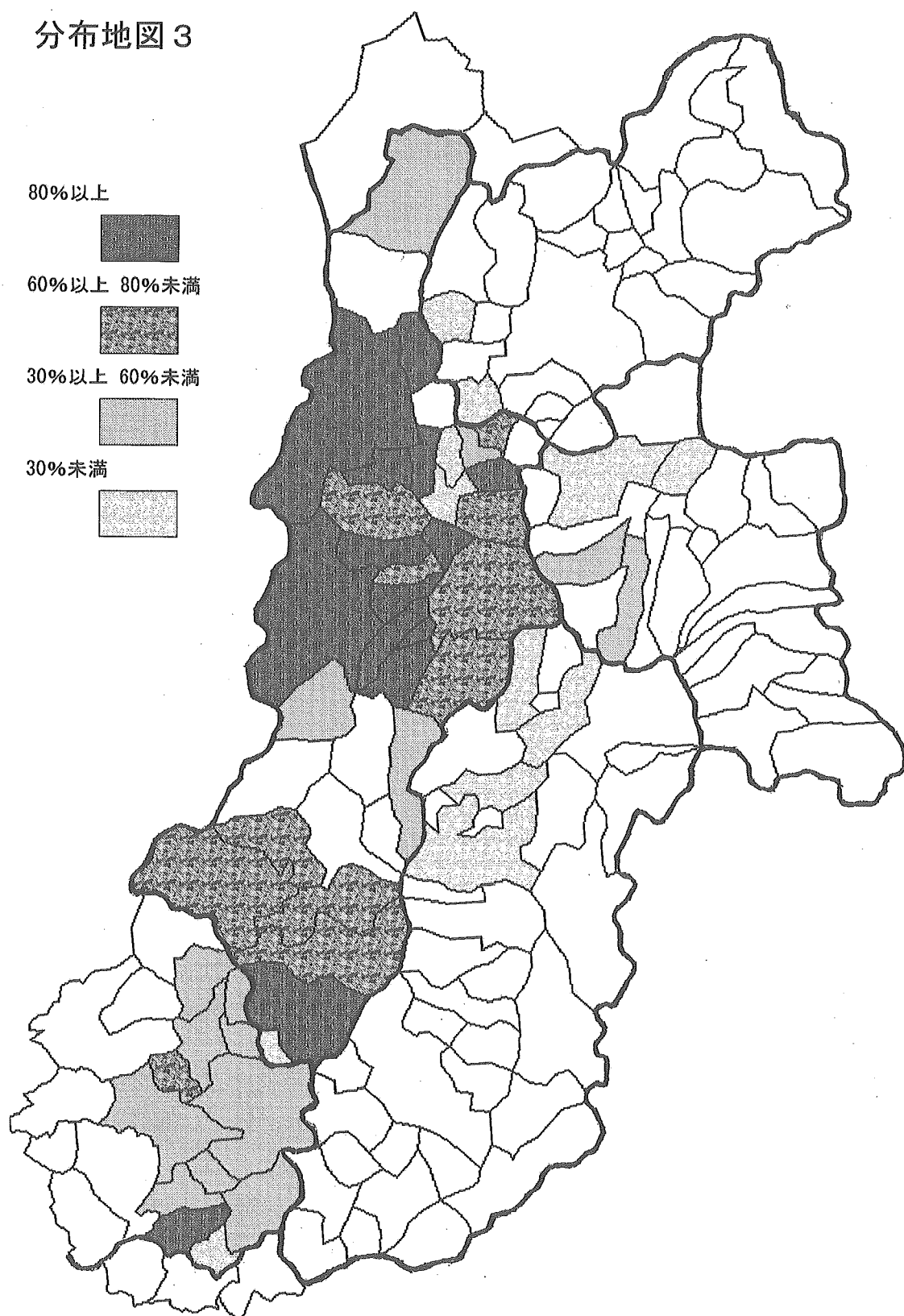
90%台 池田町 豊科町 安曇村 朝日村

80%台 堀金村 梓川村 明智町

100%となっている市町村では、調査に回答した人において、調査した動詞について、方言形がすべて行われているわけである。たまたまそういう人ばかりを調査したということもありえるが、それにしても高い使用率である。90%台、80%台がそれに次いでいる。

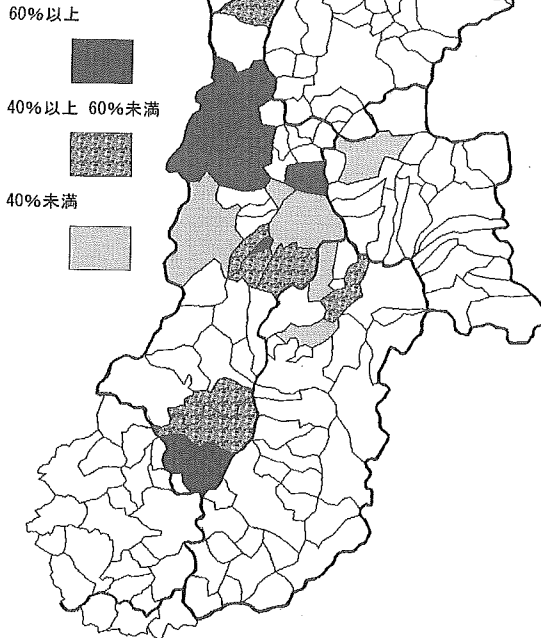
使用率が低い方を見ると、箕輪町・伊那市・東部町・上田市・大岡村・小川村・生坂村が20%未満である。大岡村・生坂村ではいずれも、言うとする語が1語 taberi('ja)のみであり、そのために使用率が低い。他の所では「言う」の人が少なく、市町村全体として使用率が低くなっている。

分布地図 3



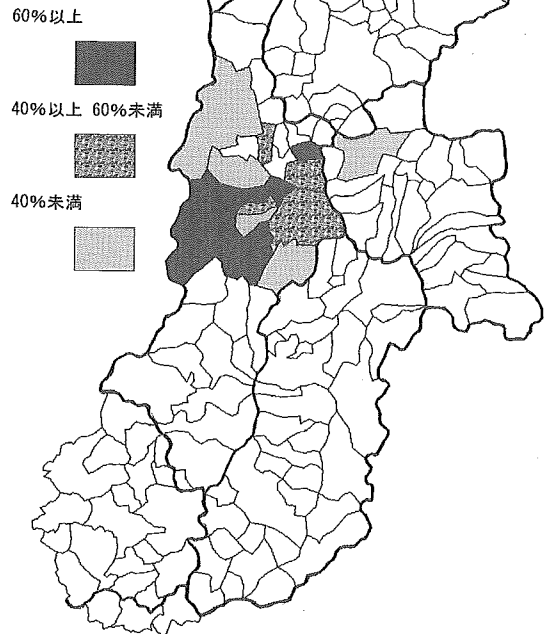
分布地図 4

ki



分布地図 5

kuri



6. 地図化 その2

6. 1 市町村ごとの集計の地図化

以上の計算結果を、30%未満、30%以上60%未満、60%以上80%未満、80%以上に分けて地図化すると、分布地図3のようになる。

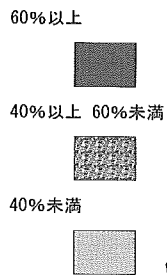
地図から分かるように、長野県内では中信地方以外に60%を超える所がない。南信・東信・北信それぞれに使用はあるものの、使用率は皆低い。「言う」の人数で見ると武石村は調査者に対して100%、大岡村は66.7%で、「言う」の人数の比率は多い方であるが、使用率で見ると、低くなっている。中信地方は一部を除き高い使用率である。その中で大町市から塩尻市にかけてが大勢力である。次に木曾郡北部を飛び越えて、木曾郡南部が大勢力である。中信地方を南北に伸び、さらに南接する岐阜県に連続して広がっていることを、地図から見ることができる。岐阜県の中では、明智町と蛭川村が高い。

6. 2 語ごとの集計の地図化

ki('ja)、kuri('ja)、si('ja)、siri('ja)、suri('ja) について、市町村ごとの使用率に基づき地図化をする。使用率を次のように分ける。・60%以上 (回答が3の場合、2以上。5の場合、3以上) ・40%以上 (回答が2の場合、1以上。5の場合、2以上) ・40%未満。それを表したのが分布地図4～8である。地図の順序は都合により siri('ja) と suri('ja) を入れ替え、siri('ja)－地図8、suri('ja)－地図7とする。

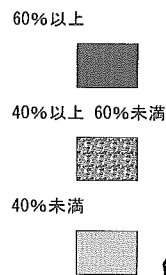
分布地図 6

si



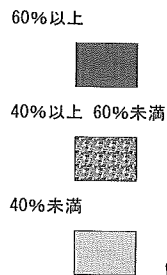
分布地図 7

suri



分布地図 8

siri



6. 2. 1 ki('ja)、kuri('ja)

ki('ja)、kuri('ja) は「言う」の人の中での使用率が低く、それぞれ35.8%と28.9%である。ki('ja) は飛び飛びではあるが南北に長くあり、相当広い範囲に行われている。それに対し kuri('ja) は中央部に限られている。使用率は35.8%と28.9%であり、kuri('ja)の方が小さいが、極端な違いではない。とすると kuri('ja) は狭い範囲で濃い比率で使用されていることになる。kuri('ja) については、使用地域が狭く固まっていることから、新しく発生したものであることが考えられる。次に kuri('ja) は使用率の高い所が、松本市・四賀村・本城村から安曇村まで東西にわたって続いており、その南北、塩尻市・穂高町・大町市は使用率が低くなっている。kuri('ja) の使用率が高くしかも人口が多い所は松本市である。松本市の北西の豊科町も

使用率が高く、また人口が比較的多い所である。(2000年現在、27,000人)

ki('ja) の使用率を見ると、松本市・豊科町では低い。また ki('ja) は松本市・豊科町の北・北西・南西・南では使用率が高い。

以上のことを踏まえると、ki('ja) と kuri('ja) の関係について、次のようなことが可能性として考えられる。松本市・豊科町にあった kuri('ja) (発生がどこであったかは問題としない) は、松本市・豊科町で勢力を伸ばし、同じ意味を表す ki('ja) を圧倒した。そして多い人口を背景として周りに伸張した。西方、堀金村・三郷村・梓川村・安曇村で ki('ja) を駆逐または圧倒し(北方の本城村も含まれるか)、北方、四賀村・池田町と南西方、波田町・山形村・朝日村では共存している。また現在 kuri('ja) の使用率が低い所である北西方、穂高町・大町市、南方、塩尻市にも勢力を拡大しつつある。――以上のようなことが推定できる。

6. 2. 2 si('ja)、siri('ja)、suri('ja)

これらの中では siri('ja) が特別に使用率が高い。

si('ja) の使用率は28.9%であり、低いが、地図6に見るように広い地域で行われている。それぞれの市町村は低使用率の所が多いが、行われる地域は広がっている。この使用の地域は、地図4と対比してみて分かるように、ki('ja) の使用地域と一致している所が多い。また使用率も、ki('ja) は35.8%であり、si('ja) の使用率と近い。それらが特徴である。

siri('ja) は使用率が62.0%で、高率である。しかも地図8で見ると、圧倒的広範囲で行われている。si('ja)、suri('ja) に比べ、郡を抜いている。なおこれは miri('ja) (使用率63.1%) とほとんど同じ使用率である。siri('ja) の形は上一段動詞が変化したものと同じであるが、上一段動詞からの変化である miri('ja) と同様の使用率になっていることは興味深い。

suri('ja) は使用率も低く、使用される地域も狭い。suri('ja) は使用地域が狭く固まっていることから、新しく発生したものであることが考えられる。

suri('ja) の使用地域は、地図7と地図5を対比して見れば分かるように、kuri('ja) とほとんど一致している。使用率も kuri('ja) - 28.9%、suri('ja) - 26.7%で、接近している。kuri('ja) - suri('ja) は、形の上では子音が1つ違うだけであり、形式上の類似性がある。また共に優しい命令形・勧誘形である。この共通点のためそれが使用にも反映され、連動して使われ、また盛衰を共にしているということが、可能性として考えられる。

その点で考えると、ki('ja) と si('ja) の場合もまったく同様のことが言える。ki('ja) - si('ja) も子音が1つ違うだけである。使用地域・使用率も似通っている。地図をki('ja) - si('ja)、kuri('ja) - suri('ja) が対照しやすいように並べておいた。使用地域の類似性が見て取れよう。ki('ja)、kuri('ja) - si('ja)、suri('ja) は組となって、互いに影響をし合い、同様の使用傾向となっているのではないかと推察される。

7. その他のこと

回答者の中で、1つあるいは2つの語を言うとしている人たちに注目したい。大岡村1・2（以下、このように表3の番号を使って示す）、生坂村1、岩村町2は、taberi('ja)のみを言うと言っている。明科町2、山口村1、串原村1・2・3は、2つのみ言うの回答であるが、その中にいずれも taberi が入っている。このように見ると taberi('ja) は、広まりやすい、あるいは定着しやすいものの1つだということが考えられよう。しかし他の語は言っても taberi('ja) を言わないという回答もあり、複雑である。

四賀村の6人に注目する。この人たちは3人ずつ非常に違った回答となっている。四賀村1・2・3は少し言うのみであり、四賀村4・5・6は相当多くを言うという結果である。これらの人たちは1997年4月1日現在で、四賀村1・2・3は24～28歳、社会人、四賀村4・5・6は19歳、学生である。こうした違いはあるものの、差があまりに大きい回答となっている。単なる偶然かもしれないし、四賀村4・5・6が松本市に通う学生であるからかもしれない。なお四賀村での老年層に対する調査では、1997年4月1日現在、72歳のひとと74歳のひとの回答は、「言わない」であった。

以上、タベリ・ミリ等について見た。あくまで長野県とそれに隣接する地域についてのみであるが、使用状況の一端を明らかにできたと思う。

参考文献

- 上條 厚 2002 「タベリ・ミリ等の長野県と東濃での分布(1) — 中信地方とそれに連続する地域の優しい命令形と勧誘形 —」『信州大学留学生センター紀要』第3号
- 上條 厚 2001 「タベリ・ミリ等の松本地方での状況 — 中信地方方言の優しい命令形と勧誘形 —」『信州大学留学生センター紀要』第2号
- 馬瀬 良雄 1992 『長野県史 方言編』
- 国立国語研究所 1991 『方言文法全国地図』2
- 飯豊毅一他 1983 『講座方言学 6 中部地方の方言』
- 馬瀬 良雄 1971 『信州の方言』

